

みうらトーク&トーク 平成 28 年度第 3 回

日 時

平成 28 年 11 月 7 日(月)

13 時 30 分～14 時 30 分

参加者

みうら観光ボランティアガイド協会

テーマ

三浦市の観光

三浦市長あいさつ

みうら観光ボランティアガイド協会

会長あいさつ



<意見交換・概要>

市長 最近はお客さんの層が徐々に変わり、若者や外国人観光客が増えたが、なにか最近の特徴みたいなものはありますか？

市民 最近スマートホンなどで情報を得てからいらっしゃる方が多い。三崎口の駅でも「スマホを見てここへ来た」という「ただ道順がわからないから教えてほしい」という若者が多いです。昔と違い「場所」よりも、そこへの「道のり」なんです。

市長 まぐろ切符のお客さんは多いですか？

市民 とても多いです。まぐろ切符は評判もいい。

市長 観光客の皆さんの動きや、客層が変わったなどは感じますか？

市民 まぐろ切符の影響も大きく、以前より若い人が増えています。昔は団体客が観光バスで入ってくることが多かったが、今は個人でのまぐろ切符のお客さんが目立ちます。土日のお昼は三崎口の駅が大変混み合います。

市長 まぐろ切符は平日でもミドル層の方々に来て頂き、食事が出来る店舗なんかも増えました。京急の中でもヒット商品となっているが、少し落ちついてきたという話も聞いています。

市民 リピーターの方もいらっしゃいます。何度も来て、もう行く所がないからお土産を買って帰るんだとか。

市長 その他に特徴などがありますか？それほど大きな変化は感じられないでしょうか？

市民 小網代の森ができてから、お年寄りのウォーキングが多くなり、80代の方までウォーキングにいらしています。足下がおぼつかない人もいらっしゃるので、コースによっては整備しないと歩きづらい箇所があります。

市長 そちらは、ハイキングコースでしょうか？

市民 はい。小網代の森は道が整備されているが、城ヶ島のハイキングコースは竹がものす

ごく鬱蒼としている。そのせいで城ヶ島のロケーションの良さを見られないで歩いているのがすごく残念だ。

市長 城ヶ島ハイキングコースの整備については「新たな観光核づくり」の取組の中で、県と協議し実施に向けて調整を進めています。「新たな観光の核づくり」では、城ヶ島・三崎の回遊性向上を目的として、これまでに釣り堀を作ったり、オートキャンプ場の計画を作ったりしました。また、城ヶ島区が中心になり、サインなどの景観のデザインを統一していこうともしています。以前シャッターアートとして、シャッターに絵を描いてみる事業も行ったのですが、それも老朽化で見栄えが悪くなってしまいました。そこで「和モダン」というコンセプトで商店街を形成していこうというような動きを始めており、商店街の手前に新たにできる食堂はそのようなデザインで作ってもらっています。店舗改修の費用なども一部補助いたします。

ハイキングコースの整備も市だけでなく、城ヶ島観光協会や城ヶ島区の皆さんと一緒にやる準備をさせてもらっています。

市民 せっかくロケーションが良い場所ならお客様にご案内したい。「恋する灯台」で紹介されている安房埼灯台は整備もされており、とっても綺麗です。しかし、肝心の城ヶ島灯台は最近水も濁ったままなので、若い方をそういったキャッチフレーズで呼ぶなら、若い方に来てもらえるような場所にしないといけない。

市長 今はまだ構想を練っている段階ですが、京急ホテルの建て替えを検討してもらっています。宿泊施設はとても重要であり、城ヶ島ホテルがキーになります。そこで、京急がリニューアルについて具体的な検討にはいりました。京急は温泉の掘削権も持っているもので、それも併せてホテルのリニューアルを検討していただくこととなりました。「工事用の道路をどうしようか」など、具体的な検討にはこれから入っていきます。そうなれば、城ヶ島灯台の公園の整備も併せてやろうということになる。

「恋する灯台」というのは、日本財団から支援を受けている「日本ロマンチスト協会」から指定を受けた全国で21箇所の灯台のことです。三浦市では安房埼灯台が最初に指定されたのですが、三浦市としては城ヶ島灯台も売り出していきたいと思っている。そこで、城ヶ島灯台とセットで指定をしていただけるのなら三浦市として指定を受けますと交渉し、21箇所22灯台ということで指定していただきました。それ自体にどんな効果があるのかはまだ未知数ですが、これからその場所を整備し、恋人の聖地にできないかというようなことを考えています。観光課の核作りということで、これから整備を図っていこうと思っています。

市民 馬の背洞門の浜へ降りる場所に手すりが必要ではないか。両方に手すりがないと、今の状態では怪我の元です。先日も怪我をしている人がいらっしゃいました。ある程度ウォーキングを楽しむ人が高齢化になっているので、やはり足下をちゃんと整備してあげたい。

市長 手すりにつきましても、ハイキングコースの整備と併せて準備するようにいたします。

市民 あとは、泥などが多いので滑ってしまう。雨上がりなどは特に怖いので、もし調査な

どをやられるときがありましたら、一人二人同行し、意見を言わせていただけるとありがたいです。

市長 これから整備についてまとめていきますので、その後機会を設けます。

市民 その他には、やはり掲示板の充実をお願いしたい。文化財については、三浦市はお宝を多く持っていると思っているので。歴史散策で案内する場合、看板の表示が物足りないものがいくつもあります。特に向井一族のお墓は、歴史的に見ても驚きです。そちらも表示があればいいのに何もありません。

市長 三浦市はお寺もお墓も多いので、そういったものを求めるミドル層も多いです。歴史の施設の案内板につきましては、昨年新たに英語版のものを作りました。

市民 地学の関係は城ヶ島が1940～50年代に、現在は油壺が大きく取り上げられています。特徴のある三崎油壺層・初声層の色々な堆積岩があるということで。あの中にはクロスラミナが素人でもぱっとわかるほどに見つかります。クロスラミナとは、波が静かな時と流れがあった時の繰り返しで、平らなものの上に傾斜したものが堆積し、クロスしたような地層のことです。これはいい観光資源になると思う。一番お金がかからない観光資源というと、地学の資料です、岩などは波や風によって浸食されないかぎり手を掛ける必要もないですから、保護というのも同時に考えていただければと思う。

市長 地震があつて断層が話題になるとテレビ局も取材にいらっしゃいます。見えている断層はあまりないらしいですね。

市民 地層も日本全国にあります、表面に出ているのが見られるところが三崎の特徴ですね。市の方から「〇〇を見せてあげたい」と発信することが多いですが、今後は観光客が何を求めているのかを知って、対応していかないといけない。

その他には、トイレが無くて困っています。

市長 今、公園を改修しようという動きがあります。下町の交番を移動する案も出ています。交番を移動するとなるとまた時間がかかると思うのですが、交番の前の交差点の場所を改修しようと思っています。

市民 三崎口でお客様が城ヶ島・下町を観光したいといっても、どこに行けばいいのかわからない方が多いです。いきなりバスに乗って下町まで来てしまう方もいらっしゃいますので、私たちはそういった方のためのご案内ができるかなと。特に「うらり」は連休のときなどとても混雑しますよね。そこに観光案内所があれば出て行ってご案内もできると思います。

市長 うらりの表にプレハブなどを用意し、うまく張り出すみたいなのはいかがでしょうか。

市民 バスを降りてすぐに案内所の看板が見えれば寄って頂けると思う。三崎は歩いて周るだけでも魅力的なのに、うらりだけで過ごしている方がいらっしゃるのはもったいない。

市長 三崎の観光案内所の件も協議してみます。

市民 子どもが遊びに来る施設を作ってもらいたい。公園なのに遊ぶところが無いので。

市長 三崎下町が潤うような経済的基盤をつくりたいという思いがあり、色々研究していま

す。もちろん公民館のような機能というのは三崎に残さないといけません。また、三崎中学校跡地などはロケーションも良く、下町に人が流れるような仕組みができないか考えております。今は日帰り観光が中心なので、滞在型にしていくには宿泊施設の充実が欠かせません。ホテルもハイクラスのホテルだけじゃなくて、外国人が簡単に泊まれるようなシェアハウスのようなものを作っていけないかということも検討しています。二町谷も漁港の機能だけで埋立てという目的がありますが、今の時代、なかなかそれだけで活用することは難しい。なので、現在いろいろな企業の意見を聞き、一部は水産施設で手が上がっているところもあります。その他にも、広大な土地なので、いろいろな動きをさせてもらっています。様々なご意見を頂いて、来年の今頃にこういった機会を設けたとしても、実際に動きはありますが、目に見えて進展しているかどうかというのは何とも言えない。今三浦市へ来るお客様は増えているのですが、おもてなしするには皆さんの役割が非常に大きい。気が付いたことがあったらいつでも担当までご連絡をお願いいたします。

市民 ガイド養成講座を来年辞めようと思っています。今年度末からは「三浦を知ろう講座」というのを計画しています。一般の方も含めた、三浦の歴史、現代の様子、その他の講座です。

市長 三浦市には総合案内板というものがありませんが、市民の皆さん向けに市費を使わず、広告収入だけで、いろいろな市民生活の上のガイドは作りました。今あったように、文化財や地層など、観光名所は羅列すればあるかもしれないが、三浦市の持っているものを総合的にご案内する冊子というものがありませんので、その冊子を作りたいと思っている。

市民 現在の広報紙の表紙に使われている文化財シリーズは良いですね。考古学の資料は横須賀市に負けていないと思っています。

それからもうひとつ、最近は家族で来るお客様が多い。城ヶ島なんか夏場だと海水浴で賑わいますが、春先だとか秋口に子どもさんと遊ぶ磯遊びの場所が三崎にはありません。「お金を使わないレクリエーション」そういうレジャーを楽しむ人が多くなってくるので、自然を楽しむことを目的に変えた方がいいのではと思います。うらりに来た人がどこかで磯遊びがしたいというときに、レンタルの道具も遊具もなく、磯も狭くどこにも行きようがないので。

市長 うらりから足を延ばすのにはということですね。

市民 いろいろな設備を作るとするのはハード面で大変ですが、城ヶ島や下町、マグロなど、そういった財産を書いた案内板を設置するのはどうか。こちら側が一方的に何か出してあげたいということでもいいですけど、あまりハード面の充実だけではなく、ソフト面で今あるものの付加価値を上げることがいいのでは。

市長 レンタルの釣り具でファミリー向けの釣り堀など。

市民 釣り堀は高くてなかなか行かない。城ヶ島には子ども連れで向こうに行って、家族 4 人で 5 千円かけたら半日遊べるような場所がほしかった。

市長 黒字経営にはなっていますが、安いプランを作ることもいいですね。

市民 規模は小さいが、浜諸磯は磯遊びができる地域の資産です。しかし、バスの路線はあるが本数が少ないです。下町から油壺に行くバスも一日 4 本しかない。

市長 油壺へのバスはいろいろとご相談いただき、京急と話し油壺から西幹線を回って下町まで行く便を土日の定期便として作っていただきました。

市民 小網代の森から三崎の下町に食事に行きたいと言う方がよくいらっしゃる。その方達には、1 日に 4 本のバスか、申し訳ないけれど油壺入口まで戻るように伝えている。できれば西海岸路線を増やしてもらい、下町にお客さんを誘導してほしいなと思います。

市長 新しい課題としていただいているものは結構あります。子ども達を視点にするとか、観光客のニーズに応えるですとか、トイレの整備もすでに検討したいと思っています。文化財の関係ですとか、地層も新たな資源として取り入れたいと思いますし、非常に参考になるご意見をいただきました。今経済部の方で観光振興をどう進めていくかという、グランドデザインを作ろうと思っていますので、ボランティアガイド協会の皆さんにも中心的な役割を担ってもらいたいと思っています。また気がつくことがあったらご相談いただければと思います。

※ 公表については了承を得ております。